

白浜レスキューネットワーク通信 11～1月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

http://srnw.or.jp

e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

11月1日～11月30日

電話件数 114 件

保護件数 2 件(男性 2 名)

共同生活者数 14 人

(男性 8 人、女性 4 人、中学 1 人、小学 1 人)

○18日、三段壁から電話があり男性を保護。出てきた町の各関係機関と連絡を取った。精神的にしんどい状態だったので、メンタルクリニック受診。白浜荘で暮らすことに。

○25日、男性を保護。タクシーの運転手に説得されて連れて来られた。車上生活をしていて、寒くて、お金も底をついて、もう死ぬしかないと思ったということだった。

12月1日～12月31日

電話件数 118 件

保護件数 1 件(女性 1 人)

帰宅件数 2 件(男性 2 名)

他の施設へ 1 件(男性 1 名)

共同生活者数 12 人

(男性 5 人、女性 5 人、中学 1 人、小学 1 人)

○14日、女性を保護。

○14日、男性が西成区の共同アパートへ移って行った。

○15日、男性が、年金が入ったことを受けて、自宅へ戻った。

○17日、男性が、年金が入ったことを受けて、出て行く決断をした。

1月1日～1月31日

電話件数 125 件

保護件数 3 件(男性 2 名、女性 1 名)

帰宅者数 2 名(女性 2 名)

共同生活者数 14 人

(男性 7 人、女性 4 人、中学 1 名、小学 1 名)

○12日、男性を保護。メンタルクリニックへ。

○12日、女性を保護。田辺市で当 NPO のことを聞き保護を求めて来られた。数日滞在して就職活動をしたが、条件の合うところがなく、都会で住み込みの仕事を探したいと出て行った。

○31日、男性を保護。警察に保護された男性が、頼る家族などがいないということで、当 NPO に保護の依頼があった。

○先月保護した女性が、自宅に帰る決断をした。

○アパートへ自立し関わりを続けていた男性が、老人ホームへと移ることとなった。

生活自立支援活動

○9月に保護した男性は、生活保護を申請し、医療費だけ受給することに。しかし、12月に西成の方へ出て、共同アパートの大家さんと電話をかけてきて、白浜には戻らないと伝えてきた。生活保護も大阪で再度申請をするとのこと。

○9月に保護したもう一人の男性は、目の治療を行いつつ、農業と保養所業務で頑張っている。周辺の草引きや掃除にも積極的で、よく働いている。

○まちなかキッチンで働く 40 代男性は、落ち込んでいたメンタルも復調し、この数カ月は運営する側の意識を持ち頑張っている。

○まちなかキッチンで働く 30 代男性は、携帯電話でのゲームなどで課金を繰り返し多額の請求が来た。本人としっかり話し合い、仕事以外では携帯電話を預かることに。借金返済のための資金がギリギリになり、自分の愚かさを周囲にさらしてしまうこととなった。

○まちなかキッチンで働く 30 代の男性は、中

心的メンバーに育ってきた。15日に部屋のチェックを行なった際に、ゴミを袋に入れてため込んでいることがわかった。生活面での改善が求められる。

○まちなかキッチンで働く20代の男性は、当NPOに来る前にお世話になっていた神戸の教会の牧師夫妻が面会に来てくださり、約一年経過して薄れてきている初心をもう一度確認した。

○まちなか惣菜で働く50代女性は、仲間二人と共に、おせちの担当で一年かけて準備してきたが、12月に入って計画通り進まなくなってきたことから、精神的負担となり、自分たちだけではできない状況に陥って辞めたくなくなった。最後は助けを借りて全うし、おせちを販売することができた。これによって本人の課題が見えた。

○まちなかキッチンとコンビニを掛けもちしている20代女性は、死にたい気持ちをずっと持っていたが、7年経って、とりあえず、死なずに生きていくことは考えられるようになったとのこと。ただ、将来に希望や夢はなく、仕方なく生きていくという心境だ。しかし、一歩前進したことは間違いない。

○紀南こころの医療センターに通院している50代男性は、死にたい気持ち、消えてなくなりたい気持ちが消えることはない。しかし、今、何もできなくても、生きていてくれていることがうれしいというメッセージに、少し雰囲気が変わって来たと思う。

○すべての借金を返し終わった女性は、少しずつ貯金できていることを受けて、大阪の友達のところに行って、やり直したいと言い出した。30万円ほどの貯金はすぐに使い切ってしまう可能性があることなどを説明。それでも行くか？との問いかけに、大阪に出る決心が鈍った。

○精神的にしんどい50代女性は、まちなかキッチンで二時間ほどの仕事をしながら、規則正しい生活を心がけている。

○家族で共同生活に加わった40代男性とその子どもたち(中学1年男子、小学1年女子)は、それぞれよく頑張っている。親は親として成長し、子どもはそれぞれの学業に頑張っており、親子の関係を築きなおしている。

○1月に保護した60代男性は、メンタルクリニックに通いながら農業に取り組んでいる。父親と茄子の栽培をした記憶など語ってくれた。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンター、御坊店、各店舗のご協力ですべての食材を提供していただいている。

行政や地域の各機関と連携して生活に困っている方々に配布している。

(株)ダイエー坊池常務取締役が田辺市長を訪問し、ご挨拶とフードバンク・フードドライブ活動について報告を行なった。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

後期もレポート提出が終わり、あとは期末テストを残すのみとなった。

追試課題も視野に入れながら、単位取得を目指している。

女子生徒は、午前中まちなかキッチンで働き、午後からの授業に出席と、よく頑張っている。12月には、近くのIT企業のロビーで行われているコンサート企画に先生方とハンドベルで出演し、小中学校の先生方も聴きに来てくださった。来年度の新入生を募集している。

入学希望者へのウイクスフォーによる面談など行う方向で考えている。

・児童家庭支援センター設置に向けて

来年度、児童家庭支援センター設置を目指して準備してきましたが、ようやく相談員をしてもらえる社会福祉士と精神保健福祉士、そして臨時職員となる臨床心理士に目処がついた。

今後、公募がなされ、3月に選考がなされ、3月末に決定。4月1日に調印がなされ、一カ月かけて準備のあと、設置。運営開始となる予定だ。

引き続き、設置に向けて努力していきたい。

・コペルくん

夕方行なわれているコペルくんは、3名の子どもが参加している。その他、時々来る子どもが2人。

・夜コペ

定期テスト前に、中学生3人が参加している。